デロイト トーマツの人

テーマからインタビューを探す

プロフェッショナルたちは、なぜデロイト トーマツを選んだのか。
仕事内容、働く環境、目指すキャリアなど、デロイト トーマツで働くプロフェッショナルたちの声をお伝えします。

グローバル連携

グローバルな視点と専門性で、企業のガバナンス強化と課題解決に挑む仕事

合同会社デロイト トーマツ
シニアコンサルタント

Deloitte & Touche LLP出身／グローバル連携／チャレンジできる環境

世界情勢の動向を踏まえ、変化していく政策アジェンダに対応していく

合同会社デロイト トーマツ
マネジャー

コンサルティングファーム出身／グローバル連携／多様な専門家との協働／チャレンジできる環境

グローバル日系自動車産業をデロイトネットワークで支える

合同会社デロイト トーマツ
ディレクター

総合系コンサルティングファーム出身／グローバル連携／社風

各分野のスペシャリストと一緒に働く喜びがある

合同会社デロイト トーマツ
シニアコンサルタント

独立系SIer企業出身／グローバル連携／若手活躍／リモートワーク

採用ページへ戻る

グローバルな視点と専門性で、
企業のガバナンス強化と課題解決に挑む仕事

合同会社デロイト トーマツ／リスクアドバイザリー
関西リスクアドバイザリー　シニアコンサルタント
Deloitte & Touche LLP出身
グローバル連携／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. 現在の仕事内容について教えてください

A.関西リスクアドバイザリーのGRCチームに所属し、日本の多国籍企業に対するガバナンス（G）、リスク（R）、コンプライアンス（C）に関連する業務に携わっています。特に、内部統制の高度化、内部監査支援（ J-SOX基準対応も含む）などの業務を中心とし、現在は、国内外の企業における、特にIT領域のガバナンスやコントロールの領域に力を入れて取り組んでいます。これらの業務では、クライアントの業務プロセスやIT環境を深く理解し、課題に合わせて最適なソリューションを提案できることが強みであり、実務的かつ現場目線でのアドバイスを通じて、クライアントのガバナンス強化やリスク低減に貢献できるよう心がけています。

Q.アドバイザリーを選んだ理由を教えてください

A.もともとDeloitte USに所属しており、Japanese Service Group（JSG）にも関与していたことから、日本の監査チームやアドバイザリーチームと連携する機会がありました。その中で、リスクアドバイザリーでは、多国籍企業に対し多岐にわたる支援ができることや、さまざまな専門スキルを持つ方々と一緒に働ける社内環境であることを知りました。また、日本を拠点としながら海外出張や海外のDeloitteメンバーと連携する機会も多く、これまでの海外経験を活かせる環境である点は、関西リスクアドバイザリーを選んだ大きな理由です。

Q.デロイト トーマツに入社して、成長できたと感じている点を教えてください

A.入社してからは、さまざまな業界や規模のプロジェクトに携わることで、専門知識に加えてコミュニケーション力も成長できたと感じています。特に多国籍企業の案件や多様なバックグラウンドを持つメンバーと協働する中で、異なる価値観やアプローチに触れ、柔軟な発想や対応力を身につけることができました。実際、プロジェクトのためアメリカやドイツへ出張した際には、現地の方々に対するアプローチ方法や業務の進め方について、その土地柄やクライアントの状況に応じて柔軟に対応することが求められ、そういった環境の中、相手目線の立場から対応策を考え、クライアントの課題解決を図るスキルが身についてきていると思います。

Q.デロイト トーマツで働く魅力はどんなところですか？

A.少人数のチーム体制で進めるプロジェクトもありますが、人数に関わらず、常にチーム意識を持ち、お互いに協力・補完し合うことで、クライアントに対して高品質なサービスや付加価値を提供できる点が魅力です。
また、自分の意見を自由に発信できる環境が整っており、自身の目標や挑戦したい分野を明確に伝えることで、希望するプロジェクトに積極的に関与できます。多様なバックグラウンドを持つメンバーと切磋琢磨しながら、専門性を高め、幅広い経験を積むことができるのもデロイト トーマツで働く大きな魅力だと感じています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

世界情勢の動向を踏まえ、変化していく政策アジェンダに対応していく

合同会社デロイト トーマツ
【M&Aビジネス】インフラ・公共セクターアドバイザリー　マネジャー
コンサルティングファーム出身
グローバル連携／多様な専門家との協働／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. インフラ・公共セクターアドバイザリー（以下：I&CP）の仕事内容について教えてください。

A. I&CPは、官公庁や自治体、デベロッパーやインフラ事業者などの民間企業、国際ドナー機関などの幅広いアクターに対して、インフラ分野に関する複合的なアドバイザリーサービスを提供しています。主要なテーマとして4領域あり、①インフラ投資・M&A、②インフラ調達・ファイナンス、③キャピタルプロジェクトという三つの軸と、国際ドナー資金に基づく④国際開発があります。

Q. 当社を選んだ理由を教えてください。

A. 前職では、民間企業に対する経営コンサルティングに従事しており、その仕事もやりがいはありましたが、学生の頃に国際協力に関心を持ち開発学を学んでいたことから、あらためて国際協力や、広く社会課題に取り組みたいとの思いを強くし、当社に転職しました。現在、海外展開や国際協力を専門とするチームに所属していますが、国際色豊かなチームメンバーと、モチベーション高く働くことができ、やりがいを感じています。

Q. どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 私は国際開発アドバイザリー（前述の④）のなかで、特に都市開発・都市政策に携わることが多いですが、同分野は交通、住宅、エネルギー、環境など、テーマは多岐に渡ります。そうしたなかでも、さまざまなテーマのプロジェクトに挑戦することで、海外動向を踏まえた日本の政策のあり方を検討し、道筋を見いだすことに日々取り組んでいます。公共セクターは学び続けていく姿勢が必要となる領域だと感じていますが、今後も興味や追及心を持ち続けて、取り組んでいきたいです。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 国際開発アドバイザリーでは、さまざまな経歴や海外経験を持つメンバーが、デロイトのグローバルネットワークも活かし、日本の国際協力・海外展開の支援を通じて、より良い社会を目指し日々取り組んでいます。取り組むテーマは、従来の海外インフラ・PPP支援や民間企業海外進出支援に加え、昨今ではウクライナ復興支援や外国人材の受入れ支援など、新しいテーマにも取り組んでいます。世界情勢の動向を踏まえ変化していく政策アジェンダに対応していく必要がある点は難しさもありますが、チームメンバーで一丸となり、同分野でプレゼンスを発揮していきたいと思います。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. I&CPは、日本の課題だけでなく、途上国・先進国含め、世界を視野に、より良い社会の構築に向けて日々取り組んでいます。持続可能性、気候変動、貧困・格差、紛争など、課題は絶えることがない世界において、私たちの仕事は非常にチャレンジングですが、その分やりがいを感じることも多いです。私自身、学生時代の関心に立ち返り、国際開発アドバイザリーにたどり着き、現在に至りますので、学生時代の興味・関心を大事にして、突き進んでください。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

グローバル日系自動車産業をデロイトネットワークで支える

合同会社デロイト トーマツ
Auto　ディレクター
総合系コンサルティングファーム出身
グローバル連携／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.デロイトへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 幼少のころから国内で過ごし2011年に日本の大学を卒業しました。
それまでは海外との接点もあまりなかったのですが、1社目の総合系コンサルティングファームでは主にグローバル企業の基幹システム刷新の案件に携わり、入社1年目から東南アジア、ヨーロッパ、アメリカ現地でデリバリーを行い、様々なバックグラウンドを持つ現地メンバーとOne Teamで仕事をする楽しさを味わいました。

その中で
①システム導入に至るまでの経営判断・経営戦略領域にも携わりたい
②上流～下流までの一気通貫したサービスをグローバル同じ品質でデリバリー出来るチームを作りたい
と感じるようになり、各ファームの特性を知っていく中でデロイトが最適解という結論になりました。

Q.デロイトに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 前職ではより業務プロセス改革・基幹システム導入関連の案件が多く、PJの開始時にやることが明確になっている案件が多かった印象です。
デロイトに入って特に戦略系・新規事業関連の案件をデリバリーする機会が増えました。外部環境が目まぐるしく変わり、日々自分の周りの情報へのアンテナを高くしておかないといけないと感じました。
また、カバーしなければならない知識も幅が広がり、より経営者目線での発言・示唆が求められていると感じるようになりました。

前職では海外拠点が少なく、海外現地ではフリーランスメンバーと協業することも多かったのですが、デロイトグローバルネットワークを活用し、戦略案件から実行案件までデロイトメンバーファームのリソースで品質を担保することができることは魅力の一つだと思います。

Q.デロイトの良さを教えてください

A. 個人的にデロイトは大企業とベンチャー企業をMixしたようなカルチャーだと感じています。
デロイトとしての規模感やブランドバリューは大企業と同じようにあります。しかし、仕事の仕方は各個別PJ最適化されており、少人数で行うものも多いため、ベンチャー精神が必要となることも発生します。

自分のやりたいことを主張していけばやらせてもらえる風土もあり、自己実現は比較的しやすいプラットフォームではないかと感じています。

その風土は日本だけでなく、海外のデロイトコンサルタントも同様に持っているため、
協業する際も障壁なくOne Teamを形成できるところも良いところだと思います。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 私はAutomotive Unitに所属しておりますが、日本の基幹産業である自動車産業のこれほど深くかかわっているコンサルティングファームは他にないと思います。
担当しているクライアントの経営陣の皆様からも上記お言葉を頂いています。

デロイトとして持っている戦略～実行まで寄り添って支援できるケイパビリティを活用し、
今後もよりお客様の課題解決のカバレッジを広げ、真の意味での経営コンサルティング(戦略・業務・ITどのようなこと課題も解決できる)サービスが提供できるよう、努力していきたいと思います。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

各分野のスペシャリストと一緒に働く喜びがある

合同会社デロイト トーマツ
デジタルガバナンス　シニアコンサルタント　〈2020年3月入社〉
独立系SIer企業出身
グローバル連携／若手活躍／リモートワーク

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A. 入社後、最初に参画したプロジェクトは、ある消費財メーカーをクライアントとするシステム開発プロジェクトでした。クライアントがグローバルで事業展開を進めるなかで、同じ商品や素材でも各国で管理コードの体系が異なる状況が続いており、グローバルでの迅速かつ適切な意思決定に支障を来していました。プロジェクトでは、各国の担当者と会話しながら、グローバルで共通となるコード体系の作成を支援しました。
現在は、あるクライアントにおける大規模なシステム更改プロジェクトに参画していますが、ユーザー権限に関する方針を検討するチームに所属しています。別のシステムへ移行するため、ユーザー権限に関する設定をそのまま引き継ぐことが難しく、新システムにおけるユーザー権限に関する設定のあるべき姿をクライアントと協議するところから支援しています。
ほかには、デロイトの他国のメンバーファームと協業して、コロナ禍でクライアントとの接点が減っているという課題に対して、VRなどのテクノロジーを活用したタッチポイントの創出に挑戦しています。
参画する案件によって業務内容は異なりますが、クライアントの課題を理解し、支援するという点は共通しています。

Q.リスクアドバイザリーを選んだ理由を教えてください。

A. クライアントがデジタル技術を活用していく場面において、幅広く支援できることです。
前職ではETLやデータガバナンスに関わるツールの導入や開発支援を行っていました。独立系のSIer企業だったので、さまざまな製品に触れられる環境ではあったものの、クライアントを支援できる範囲が実装フェーズなど限られた領域となるケースも多かったです。リスクアドバイザリーは、データガバナンスに関わるサービスを幅広く展開していることから、構想策定から実装までクライアントとともに考え、支援しています。

Q.リスクアドバイザリーで働くことの魅力は？

A. 各業界・各分野の専門家がおり、そこから最新の動向を知り、それを自ら主体的に社会に還元できることです。
先に触れたVRを使ったプロジェクトも、既にデロイトUKが社内で取り組んでいたものです。UKのメンバーと連携し、その環境を活用して進めました。こうした最先端の情報や取り組みを活用できるのはデロイトという、グローバルなプロフェッショナルメンバーファームならではだと思います。グループ内で規模の大きなプロジェクトもハンドリングできるので、チーム一丸となって、クライアントが求めている以上の品質を提供することが可能になっています。
また、入所したのはコロナ禍の2020年3月でしたが、社内の人とはプロジェクト内外問わず、リモートでも距離を感じずに、スムーズに連携ができました。リモートワークに不自由さを感じないのは、一人ひとりがプロフェッショナルとして仕事をしながらも、互いを尊敬し、一体となってクライアントに最善のサービスを提供するというリスクアドバイザリーの社風も影響していると思いますし、そうした雰囲気も気に入っています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. ビジネス視点においてもガバナンス視点においても、デジタル技術やデータの重要性は年々増しています。どうすればビジネスを推進しつつ、しっかりとリスクを低減していけるのか。実際にプロジェクトに参画すると、クライアントのIT部門とビジネス部門など、企業内でも温度差として、このことが顕在化するケースが少なくありませんが、このようなギャップを解消することがクライアントにおけるデジタル技術やデータの活用の鍵となると思っています。これらの案件にさらに注力していきたいと思っています。
私個人としては、プロジェクトが完了しても、次にまた「あの人にお願いしたい」と言って頂けるようなコンサルタントになることが目標です。大企業になればなるほど最新のソリューションを期待されますから、常に知識面でも圧倒的に強いと言えるようにしておきたいですね。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A. リスクアドザリーをはじめ、デロイト トーマツ グループには、誠実に人と接し、周囲から求められているものを把握し、やるべきことを自ら考えて取り組む人が多いことが特徴だと思います。
私自身もプロジェクトの最中は学びながら手探りで進める部分もあり、大変なことも反省点も多々あるというのが正直なところです。しかし、それだけにプロジェクトが終わった段階で大きく成長したと感じています。

豊富なスキルや知識だけではなく、時に泥臭い作業を進んで実行し、常に最善を尽くすためには努力を惜しまず、愚直にやりぬくことで、クライアントに価値を提供しつつ、自らも成長していける、そのような仕事を求めている方は是非、リスクアドバイザリーに来ていただきたいと思います。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る